



沓掛小学校だより

12月号

未来を拓く ～元気・やさしさ・かがやく瞳～

NO. 584

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou>

「やる気」を育てるには

副校長 榎本 純子

先日の学芸会には、大勢の保護者・地域の方々に御来校いただきありがとうございました。受付名簿によると延べ約1300人の方が御参観くださいました。皆様から温かい拍手や御声援をいただき、子供たちの達成感や満足感もさらに高まりました。また、優先席への移動や入退場の際にも御協力いただいたことで、学芸会をスムーズに進めることができました。衣装や小道具の準備等、保護者の皆様には様々な点から支えていただき感謝申し上げます。

学芸会へ向けての体育館練習が始まったのは約3週間前ですが、練習当初は、前を向いて台詞を言うことや、どの場面でどのように出てくるのかといった動きの練習だけで終わってしまいます。ですから全体を通して劇の練習ができたのはどの学年も数回しかありません。声が小さくて「それでは後ろまで聞こえないよ。」と注意されたり、舞台上でどう動いていいかわからず「台詞がないときにも考えて動かさなきゃ。」と言われていたりしていた子供たちが、わずかな期間でここまで立派に役になりきって演じ、大作を完成させたことは本当に素晴らしいです。この数週間は、職員室でも毎日のように練習のことが話題となり、翌日の練習をどうしようか遅くまで話し合ったり、小道具を直したりと、まさに学芸会一色でした。教員の熱意と子供たちの頑張りが合わさって、生き生きとした演技が完成したのだと思います。どの子供にも「上手だったね、よく頑張ったね。」とほめてあげたい気持ちでいっぱいです。

ところで、今回の学芸会では子供たちが休み時間に自主的に練習をしたり、家で小道具を作って来たりするなど、自ら進んで活動する姿が多く見られました。この「自らやる気になったとき」の子供たちの成長には目を見張るものがあります。

だからこそ私たち教員は、日々の学習や生活でも「どうしたら子供たちがやる気になるのか。」を常に考えていかなければなりません。授業が分かりやすいように工夫するなど、教員が努力すべき点はたくさんありますが、それでもすべての子供のやる気がすぐに高まるような特効薬は簡単には見付かりません。では、どうしたらいいのか。それは、一人一人の小さな成長やほんの少しの頑張りを見付け「できるようになったね。」「すごい。」というプラスの声かけを続けることなのではないかと考えます。よく言われる「ほめて育てる」ということですが、実際にはこれがとても難しいのです。人より劣っている点や出来ていないところは、すぐに見付けられますが、ほめるところは意識しないと見付けにくいものです。人と比べるのではなく、その子なりのよさを見付け具体的に言葉で伝えていく、そういう日々の積み重ねを根気よく続け、子供のやる気を引き出していくことが私たち大人の役割なのではないでしょうか。学芸会での子供たちの成長を見て、これまで以上にどの学級にもお互いの良さを認め合える温かな言葉があふれ、やる気でいっぱいの子供たちが育つ学校にしていきたいと強く感じました。

今年も残すところ1か月となりました。まとめをしっかりと行い、気持ちよく新年を迎えられるようにしていきたいと思います。今学期も保護者の皆様、地域の皆様の御支援・御協力ありがとうございました。



6年 冒険者たち～ガンバと仲間たち～